

道文教大 地域課題解決へ新組織

【恵庭】北海道文教大は24日、地域の課題解決に向けた政策研究や人材育成を行う新組織「地域創造研究センター」を4月1日付で学内に新設すると発表した。センター長には

北大公共政策大学院客員教授の小磯修二氏(74)が就任予定。事務局を古

地域創造研究センター新組織に就任する予定の小磯氏(右)、副理事長(中央)、原田市長

「造研究センター」設立記者発表



来月設立 恵庭市と政策研究、全国に成果発信

む計4人体制で、市職員1人が出向して行政との連携を強める。大学と行政の専門性をいかし、研究成果を全国に発信することを目指す。

同センター設立は、地域活性化や大学機能の強化を図る狙い。2021年に市が同大で開いた市制施行50周年記念フォーラムに小磯氏が参加したことをきっかけに、検討してきた。

活動は共同研究プロジェクトと情報発信が二本柱。同大が強みとする健康長寿や食育のほか、人口問題、地域経済活性化などテーマ別のプロジェクトを組織し、研究者や自治体職員、市民らを「客員研究員」として募ることを考えている。セミナーやシンポジウムも開く。

24日に同大で記者会見した副理事長弘学長は「大学を拠点に世界に発信するセンターにした」と、原田市長は「恵庭だけではなく各自治体が抱える課題解決の場になれば」と期待した。小磯氏は「大学、自治体、地域が柔軟に連携し、創造的な地域政策を提案したい」と話した。